

総括質問

12月定例会では12月7日から10日までの間、16人の議員が総括質問を行い、活発な議論が展開されました。(質問者の文責により、質問と答弁の要旨を掲載しています。)

平塚クラブ

野崎 審也 議員

2期目4年間の成果と課題

問 市長は以前、2期8年で辞めたいと話していたが、市政の持続性・継続性の観点からやり残したことはないのか。来期への思いを伺う。

市長 マニフェストに掲げた政策に関する事業は、着実に進めてきた。実現に至っていない事業も今後に向けた道筋はすでに整っていると考えている。今言えることは、行政は継続していくものであり、任期満了までは市民の同意を得て市政運営を行うことが当然の責務との思いである。

問 低炭素・少子高齢化社会の中で、環境を守ることと経済の成長を図ることは、両立させなければならぬ。しかし実際は権利だけを主張し責任を果たさない社会になりがちである。パチンコ店の出店やマンション建設問題など法律を超えた民意の反映をどう考えるか。

市長 環境政策と経済政策を相まって進めていくことは可能であり、そうしなければこの世紀は持続していかない。パチンコ店の出店

ヤマンション建設が、市民生活に及ぼす影響が軽微であれば法律が優先する。しかし生活権が脅かされるのであれば法律の改正も含めた積極的な改革を目指し挑戦していく。今回のケースは、市民生活を破壊に至らしめるものではないので進めていく選択をした。

障がい者の就労促進

問 障がい者の雇用に関する制度が平成22年7月に改正されたが、今後の対策について具体的な考えは。

市長 就労を希望する障がい者に対しては、必要に応じて自立を支援する。また、継続支援として地域就労援助センター事業を行ってきた。制度改正については、市のホームページ等で情報提供を行っている。

介護支援

ボランティア制度

問 65歳以上の高齢者が介護施設で介護のボランティア活動をしたい際にポイントがもらえる制度の導入を平成20年12月定例会から何度も提案してきたが、そろそろ実施してもよいのではないか。

市長 元気な高齢者の社会参加活動を通じた介護予防

本市の教育課題

学力向上の取り組み

問 平成21年度全国学力・学習状況調査結果の評価について伺う。

教育長 ホームページで公表しているが、全国や神奈川県との平均値と比べると、中学校とも下回っている。特に知識・技能を活用する力に課題が見られる。

問 どうすれば学力の向上が図られるのか方策を伺う。

教育長 学力の向上には、児童・生徒の学習意欲の向上や学習習慣の確立が大切である。また限られた教科だけではなく、学力を総合的にとらえ、子供たちが夢をかなえたい、学びたいと思える社会を学校・家庭・地域が一体となって作ることに大切である。

駅北口駅前広場のバリアフリー化

問 平成21年10月にバリアフリー化した駅前広場の事後検証の必要性については以前から訴えてきた。雨天時の対策として、バス乗降場への上屋の設置、降車位置の変更、アーケードの雨漏り等への対応を伺う。

市長 MNビル前のバス降車場への上屋の設置は今定

ごみ減量実行計画

白井 照人 議員

問 市民がごみ減量の趣旨を理解しなければ、減量に向けた行動を実践できない。これまでの課題解決に新たな方法が必要だと思いが考へを伺う。

環境部長 24年度までに可燃ごみの20年度比10%削減を目指すため住民、事業者、行政による「ごみ減量宣言」を行い、具体的な行動として3Rの徹底、生ごみの水切り、紙類の資源再生物への搬出、レジ袋削減等に取り組むこととした。また新たに「平塚市ごみ通信」の発行、大型生ごみ処理機モデル事業、公共施設から出る剪定枝の資源化を開始した。

問 コンポスターや家庭用生ごみ処理機購入者への補助制度があるが、実績と成果を伺う。また、大磯町、二宮町でも同様の制度が行われているのか。

環境部長 累計でコンポスターは1万4468台、電動生ごみ処理機は871台に補助をしている。量の把握ができないため効果は不明であるが、最近5年間で

箱根駅伝への支援

「平塚」の知名度が全国的に高い理由の一つに、箱根駅伝の平塚中継所が挙げられる。私はこれを誇りに思うと同時に感謝している。それは平塚の名を全国に発信していただいているからだ。そこで箱根駅伝に対して本市が支援できることはないか伺う。

経済部長 箱根駅伝は全国的に知名度が高く、本市に中継所もあることから、知名度アップやPRには多大

な効果があると認識している。また市内にキャンパスがある東海大学、神奈川県立箱根駅伝常連校であり、応援していくことは大切である。今後どのような支援ができるか関係団体と話し合ってみよう。

問 関係者に本市の施設を開放するだけでなく、東海大学、神奈川県立箱根駅伝常連校の開催、箱根駅伝のフォーラムや予選会の誘致なども考えられる。平塚がPRされていることに、市として感謝の気持ちを伝えることが大切だと考えるが見解を伺う。

経済部長 関係者と話す機会を設けることからスタートして将来に何かできれば成果につながると考える。

岩田 耕平 議員

暮らしやすい街 No.1を目指して

問 安心して暮らせるまちづくりを、どのように進めていくのか。

市長 市民が地域の中でできずなを深め合い、力を出し合う、協働していくということが何よりも大切である。まず市内の各組織が連携し、地域自治を進めるとい意識に立って住民と接することが大切だと思っており、市民にも協力をお願いしていきたい。

問 暮らしやすい生活をサポートする体制はどうか。

市民部長 住民主体で地域情報を共有するホームページの作成を進めている。「公民館だより」などを掲載す

ることから始め、少しずつ情報を増やしていくようお願いしている。

問 災害に強い地域づくりを進めているのか。

防災危機管理部長 平塚市災害時要援護者避難支援プランをもとに、要援護者の存在を地域で把握し、地域住民が協力して助け合い、行政が要援護者支援に必要な資機材を備蓄している。また、身の周りのケアのための福祉避難所の整備などを進め自治会や自主防災組織、民生委員児童委員等の協力による地域の助け合いと行政の連携により、被害をゼロに近づけるよう努力していく。

問 住宅用火災警報器設置の促進に向けた取り組み状況は。

消防長 65歳以上の独り暮らし高齢者は約2700人で、11月30日までに525人の家を訪問し、281人に会うことができた。そのうち火災警報器をすでに設置している方が111人、未設置の方が170人で、39.5%の設置率だった。会うことができなかった方が

の家にはリフォームを配布し、早期の設置を呼びかけている。高齢のため自ら設置することが困難な方は、職員が自宅を訪問して設置の協力をしている。

問 交通安全対策はどうか。

市民部長 自転車のマナーアップや飲酒運転根絶等のキャンペーンを行っている。問 地場産品を食育事業に生かしているか。

健康・子ども部長 湘南朝市、湘南ひらつかふれあいマーケット、でこいまつり等を、食育事業にかかると地場産品PRイベントとして推進している。

問 市内で継承される伝統芸能を把握しているか。

社会教育部長 ふるさと歴史再発見事業を実施し、中原地区では鷹狩行列が再現され、地域伝統文化を継承している。また、市内では人形浄瑠璃を継承する団体として、3人遣いの相模人形芝居前鳥座、1人遣いの湘南座や高浜高校文楽部が活動している。そのほかにも本市の指定文化財として田村ばやし、前鳥神社祭事、前鳥囃子などがある。

インターネットで会議録を検索



平塚市議会

検索

市議会での審議の内容を「会議録」としてまとめています。会議録は市役所1階市政情報コーナーなどにあるほか、平塚市議会のホームページでもご覧いただけます。※12月定例会の会議録は2月下旬に発行・掲載します。

※ 3R: Reduce (発生抑制)、Reuse (再使用)、Recycle (再生利用) の3つの頭文字を取ったもので、循環型社会形成推進基本法では、廃棄物・リサイクル対策の優先順位を明確にしており、最初に廃棄物を発生抑制し、第二に再使用し、第三に再生利用し、第四に熱回収を行い、最後に適正に処分することとしている。